

コロナ渦の今 教会を考える その2

福音宣教は、 投資神託

ミナのためとえに学ぶ教会の使命
ルカ福音書19:11～28



【今日のアウトライン】

- I. 停滞する制度的教会
- II. 信仰は、神への投資
- III. ミナのとえに学ぶ
- IV. あるべき教会の
ありようを考えよう



I. 停滞する制度的教会



【コロナ渦で加速する教会の諸課題】

■ 超高齢化した教会に、コロナの影響が直撃!!

➡ 信徒のみならず、牧師も役員も高齢。

■ 小人数の分散礼拝、ライブ配信が固定化。

➡ 献金、礼拝出席の減少。

➡ 従来の伝道が不可能に。➡ 教勢の低下が加速。

■ 教会堂、教会組織の維持が困難に。

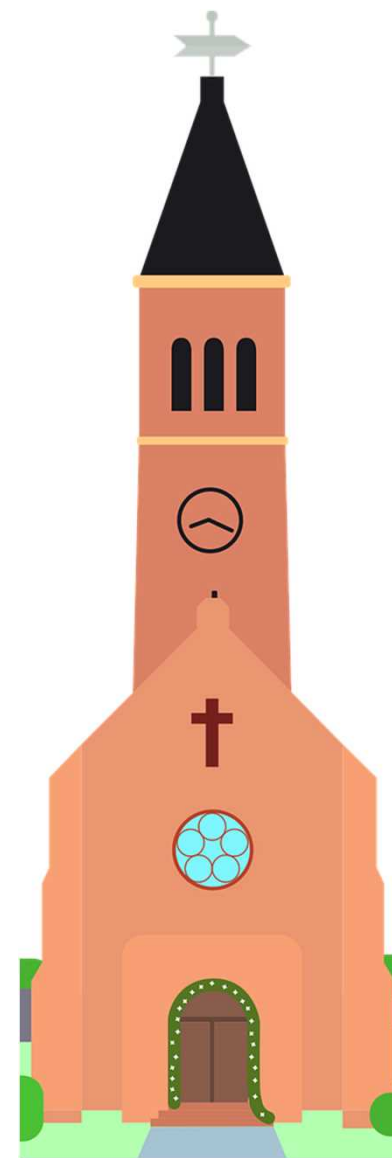
➡ 無牧師の教会の増加。

兼牧。教会の合併等が、都市部でも増加。

➡ 教会堂の閉堂、宗教法人の解散も増加。

■ 教派、教団単位でも、組織の維持が困難に。

➡ 互助制度や年金制度の崩壊。神学校の閉鎖。



【コロナ渦で加速する教会の諸課題】

■ 超高齢化した教会に、コロナの影響が直撃!!

➡ 信徒のみならず、牧師も役員も高齢。

■ 小人数の分散礼拝、ライブ配信が固定化。

➡ 献金、礼拝出席の減少。

➡ 従来の伝道が不可能に。➡ 教勢の低下が加速。

■ 教会堂、教会組織の維持が困難に。

➡ 無牧師の教会の増加。

兼牧。教会の合併等が、都市部でも増加。

➡ 教会堂の閉堂、宗教法人の解散も増加。

■ 教派、教団単位でも、組織の維持が困難に。

➡ 互助制度や年金制度の崩壊。神学校の閉鎖。



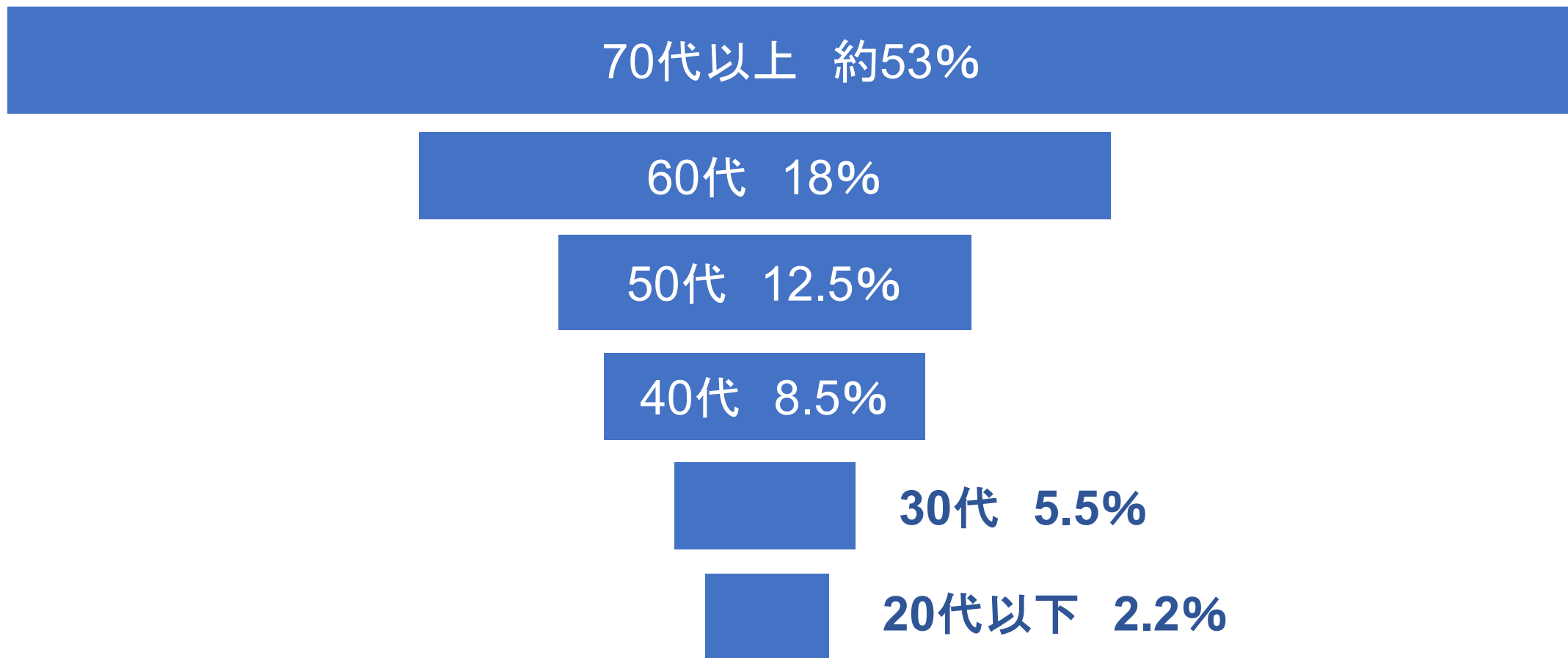
最大の危機は、
危機感の薄さ!!

【日本基督教団 信徒の世代別構成 2014年データより】

グラフ タイトル



【日本基督教団 2020年の状況(推定)】



【今できる現実的な対策は？】

■伝道へ注力!!

- ➡だが、教会堂へ人々を集める伝道集会は困難。
- ➡ネットでの伝道は、広大な種まき。時間も労力も。地域教会に都合のいい刈り取りなど無理!!

■身の丈にあわない不動産の処分

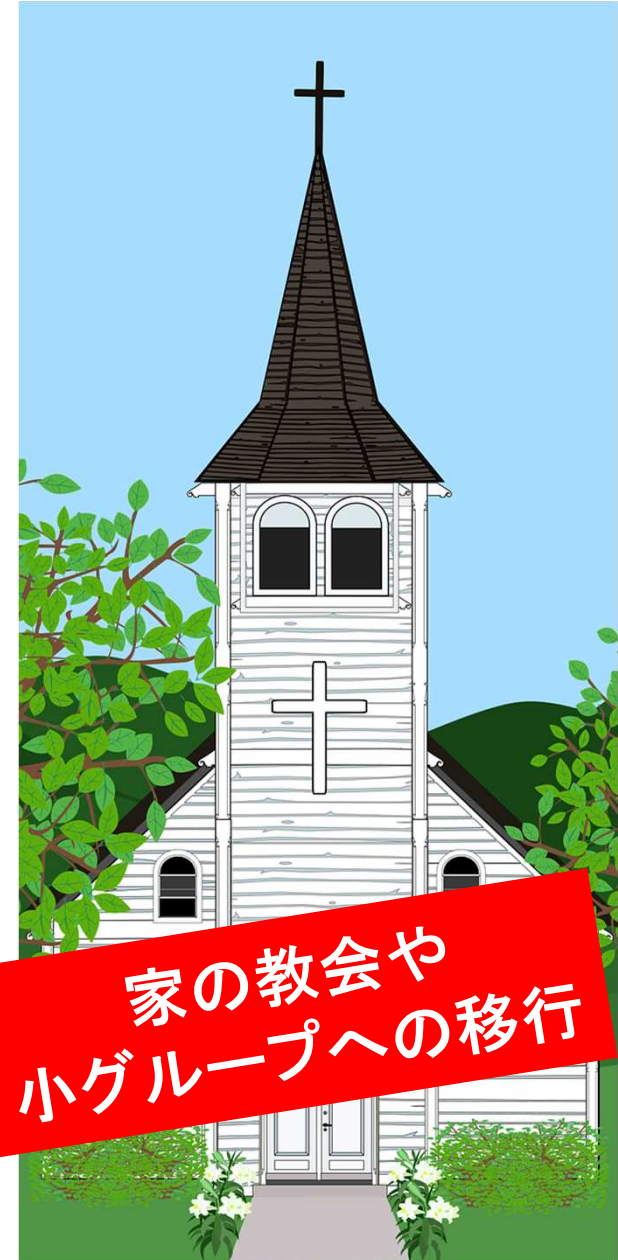
- ➡必要最小限のコンパクトな会堂・集会所に移行。

■組織のスリム化

- ➡委員会活動などの廃止、縮小。必要最低限に。

■牧師に頼らない、牧会の体制作り

- ➡集えないところで、広範なケアを担い合う体制を



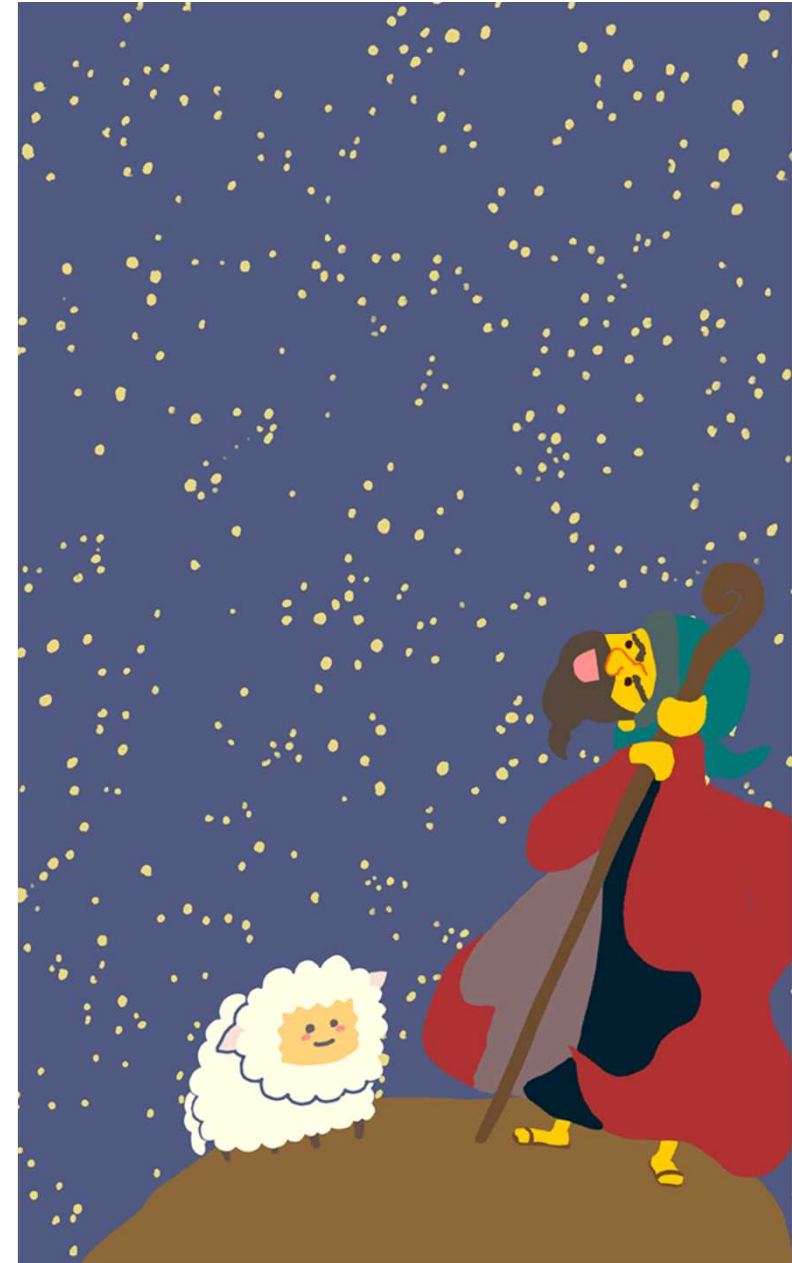
家の教会や
小グループへの移行

Ⅱ. 信仰は、神への投資



【信仰は投資。旧約時代の聖徒たちに学ぶ】

- ノアは、主を信頼して、120年に渡り、宣教と箱舟建築に全力を注いだ。
- アブラハムは、主の呼びかけにこたえ、全財産を投じて、まだ見ぬ地へ旅だった。
- イスラエルは、一族全部でエジプトへ移住。400年後、主に導かれて、今度は荒野へ。
- そして、モーセ、ダビデ、預言者たち。旧約時代の聖徒たちは皆、生涯を神に賭け、神に投資した人々。



【信仰は投資。新約時代の使徒たちに学ぶ】

- ペテロやヤコブは、漁師の職を捨て、
マタイは、徴税人を辞め、退路を断って、
生涯を、福音宣教に投じた。
- バルナバは、全財産をエルサレム教会へ
ささげた。
- パウロは、パリサイ派の律法教師として、
約束されていた名誉ある地位を手放し、
世界宣教にすべてをささげた。



【信仰は投資。主イエスに学ぶ】

■ 父なる神は、愛するひとり子を、ささげられた。

■ 主イエスは、その命をささげられた。

■ 十二使徒に、すべてをささげるように求めた。

■ 人々に、最善をささげるように求めた。

■ たとえ話でも語られる、投資のイメージ。

- ・不正な管理人のたとえ(ルカ16:1~)
- ・財をためこんだ金持ちのたとえ(ルカ12:16~)
- ・種まきに関する諸々のたとえ(マタイ13章他)
- ・タラントン(マタイ25章)、ミナのたとえ(ルカ19章)



自分でためこむのは×

神にささげるのは◎

【信仰とは、保証された投資】

■ 投資を求められていること

- ・福音を信じること。
- ・教会の一員として奉仕すること。献金すること。
- ・福音を伝えること。
- ・御言葉を学ぶこと。解き明かすこと。

■ 約束されていること

- ・罪の赦し。聖霊の内住。永遠の命。
- ・神の国の共同相続、共同統治。
- ・地上での働きに応じた、御国での報償。働き。



Ⅲ. ミナのとえに学ぶ



【ミナのたとえ】 ルカ19:11～15

19:11 人々がこれらのことばに耳を傾けていたとき、イエスは続けて一つのたとえを話された。イエスがエルサレムの近くに来ていて、人々が神の国がすぐに現れると思っていたからである。

19:12 イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が遠い国に行った。王位を授かって戻って来るためであった。

19:13 彼はしもべを十人呼んで、彼らに十ミナを与え、『私が帰って来るまで、これで商売をなささい』と言った。

19:14 一方、その国の人々は彼を憎んでいたので、彼の後に使者を送り、『この人が私たちの王になるのを、私たちは望んでいません』と伝えた。

19:15 さて、彼は王位を授かって帰って来ると、金を与えておいたしもべたちを呼び出すように命じた。彼らがどんな商売をしたかを知ろうと思ったのである。

【ミナのたとえ】 ルカ19:16～21

19:16 最初のしもべが進み出て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで十ミナをもうけました。』

19:17 主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。おまえはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』

19:18 二番目のしもべが来て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで五ミナをもうけました。』

19:19 主人は彼にも言った。『おまえも五つの町を治めなさい。』

19:20 また別のしもべが来て言った。『ご主人様、ご覧ください。あなた様の一ミナがございます。私は布に包んで、しまっておきました。』

19:21 あなた様は預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取られる厳しい方ですから、怖かったのです。』

【ミナのたとえ】 ルカ19:22～27

19:22 主人はそのしもべに言った。『悪いしもべだ。私はおまえのことばによって、おまえをさばこう。おまえは、私が厳しい人間で、預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取ると、分かっていたというのか。』

19:23 それなら、どうして私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうしておけば、私が帰って来たとき、それを利息と一緒に受け取れたのに。』

19:24 そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナをこの者から取り上げて、十ミナ持っている者に与えなさい。』すると彼らは、『ご主人様、あの人はずでに十ミナ持っています』と言った。

19:26 彼は言った。『おまえたちに言うが、だれでも持っている者はさらに与えられ、持っていない者からは、持っている物までも取り上げられるのだ。』

19:27 またさらに、私が王になるのを望まなかったあの敵どもは、ここに連れて来て、私の目の前で打ち殺せ。』

【エルサレムを前にたとえを告げるイエス】 ルカ19:11

人々がこれらのことばに耳を傾けていたとき、イエスは続けて一つのたとえを話された。イエスがエルサレムの近くに来ていて、人々が神の国がすぐに現れると思っていたからである。

■ エリコで徴税人ザアカイが救われた後に語られた。

エルサレムに上るイエス。十字架の受難は目前。

■ 弟子たちは、未だにメシアの受難を理解せず、

エルサレムでイエスが王になると期待していた。

➡ メシアは十字架で死んで復活し天に昇られる。

▶▶ メシアの再臨まで、信者には地上での使命がある。



【王からの委任】 ルカ19:12～14

イエスはこう言われた。「ある身分の高い人が遠い国に行った。*王位を授かって戻って来るためであった。

19:13 彼はしもべを十人呼んで、彼らに十ミナを与え、『私が帰って来るまで、これで商売をしなさい』と言った。

19:14 一方、その国の人々は彼を憎んでいたのので、彼の後に使者を送り、『この人が私たちの王になるのを、私たちは望んでいません』と伝えた。

* ヘロデ王も息子たちも承認を得るためローマに上った。

■ イスラエルは、メシアを公に拒み、

イエスが神の国の王となることも拒絶してしまった。



【王の帰還】 ルカ19:15～16

さて、彼は王位を授かって帰って来ると、金を与えておいたしもべたちを呼び出すように命じた。彼らがどんな商売をしたかを知ろうと思ったのである。19:16 最初のしもべが進み出て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで十ミナをもうけました。』

- 1ミナ ...労働者100日分の賃金にあたる。
 - 資産家は少数の当時、金貸しは安定した商売。財産のある者ほど、増やすのも難しくなかった。
(※当時の金利は、通常、年率4～12%、高利のものでは、24～48%に達した。)
- ▶▶王の帰還は、キリストの再臨を示す!!



【しもべの報酬】 ルカ19:17

主人は彼に言った。『よくやった。良いしもべだ。おまえはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。』

■ 十の町の支配権 ➡ありえない破格の報酬。

■ たとえの破格の報酬が意味することは？

➡神の国で信者に与えられる報酬。*

(* 神の国での統治権。)

■ 報酬を定めるのが、“キリストの御座の裁き”

➡信者一人一人に働きに応じた報酬が。



【二番目・三番目のしもべ】 ルカ19:18~21

二番目のしもべが来て言った。『ご主人様、あなた様の一ミナで 五ミナをもうけました。』主人は彼にも言った。『おまえも五つの町を治めなさい』また別のしもべが来て言った。『ご主人様、ご覧ください。あなた様の一ミナがございました。私は布に包んで、しまっておきました。あなた様は預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取られる厳しい方*ですから、怖かったのです。』

*このしもべが抱いていた、主人のイメージ。

■ 1ミナという大金を委ねた主人に対する信頼の欠如。

さらには、主人への侮蔑すら露わに。

▶▶ 不信仰な者が抱く、厳しく理不尽な神のイメージ。



【しもべの欺瞞】 ルカ19:22～23

主人はそのしもべに言った。『悪いしもべだ。私はおまえのことばによって、おまえをさばこう。おまえは、私が厳しい人間で、預けなかったものを取り立て、蒔かなかったものを刈り取ると、分かっていたというのか。

19:23 それなら、どうして私の金を銀行*に預けておかなかったのか。そうしておけば、私が帰って来たとき、それを利息と一緒に受け取れたのに。』

■ 神を信賴せず、恵みを拒んだ者は恵みを奪われる。

* 銀行 ... 両替商。預金には利子がついた。

▶▶ 神を信ぜず、恐れず、侮る、利己的な罪人の姿



【神の祝福の原則】 ルカ19:24～26

そして、そばに立っていた者たちに言った。『その一ミナをこの者から 取り上げて、十ミナ持っている者に与えなさい。』すると彼らは、『ご主人様、あの人はすでに十ミナ持っています』と言った。

彼は言った。『おまえたちに言うが、だれでも持っている者はさらに与えられ、持っていない者からは、持っている物までも取り上げられるのだ。』

- すべての信者には等しい恵みが与えられている。
 - ・ 罪の赦し ・ 永遠の命 ・ 聖霊の内住
- 主に信頼し、人生を投資する者は、さらなる恵みを与えられる。何もしなければ、報酬は取り上げられ、ふさわしい者に与えられる。



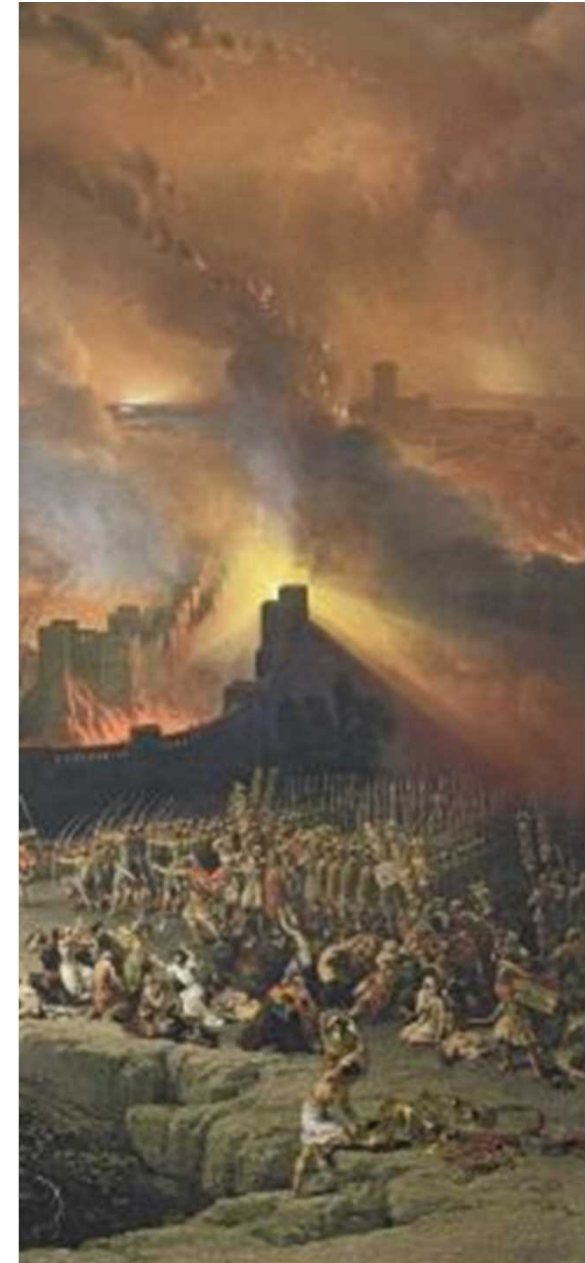
【未信者への裁き】 ルカ19:27

またさらに、私が王になるのを望まなかったあの敵どもは、ここに連れて来て、私の目の前で打ち殺せ。』

* 敵ども ...最初から王に敵対している者たち。

▶▶メシアを信じなかった、未信者たち。

- メシアを拒んだ不信仰のイスラエルは、紀元70年、ローマによるエルサレム陥落によって裁きを受けた。
- メシアを最後まで拒み、信じなかった者は、千年王国の後、キリストの白い御座の裁きによって、永遠の滅びにいたる。



【ミナのたとえのまとめ】

■ 王として帰還する主人 ➡ 再臨する王なるキリスト

■ しもべたち ➡ 福音を信じたクリスチャン

▶▶ 地上での働きに応じて、御国の報償が決まる。

(キリストの御座の裁き・携挙後)

① 10ミナもうけたしもべ ➡ 超忠実なクリスチャン

② 5ミナもうけたしもべ ➡ 忠実なクリスチャン

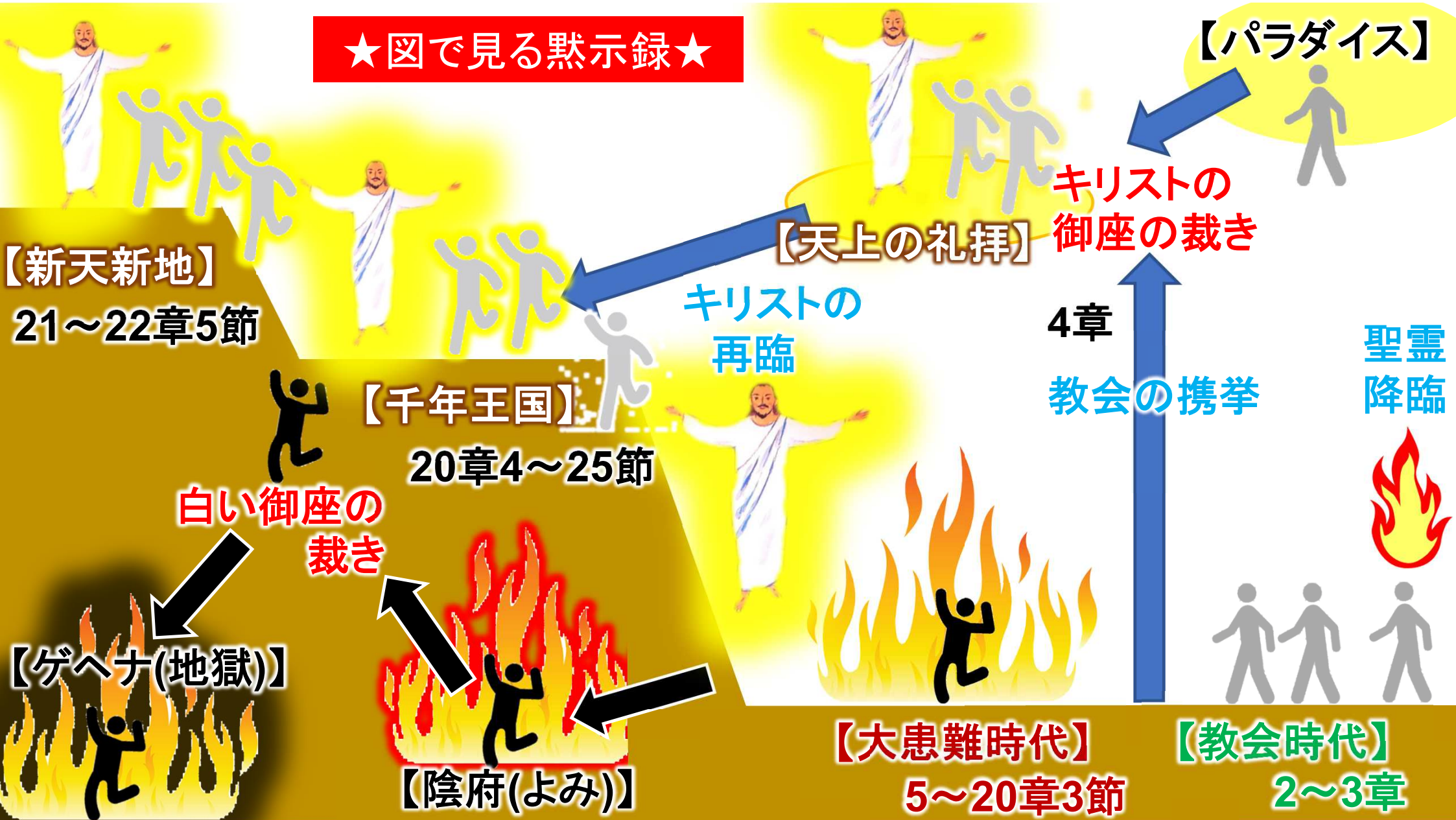
③ もうけなかったしもべ ➡ 不忠実なクリスチャン

■ 王を拒んだ民 ➡ メシアを信じなかった人々

▶▶ キリストの白い御座の裁き後、永遠の滅びに!!



★図で見る黙示録★



IV. 教会のあるべき姿を考える 福音宣教を第一の使命とするには？



【日本人のリーダーコンプレックスと日本の教会】

- 野党の意見を聞かない与党
政権批判ばかりで対案のない野党 } 党が入れ替わっても、
与野党の図式は変わらない。
- 権威に盲従する人々(批判をゆるさない)
権威に反抗する人々(妥協を認めない) } コインの両面。
本質は同じ。
- リーダーの支配とリーダーへの依存は、コインの両面。
依存的な人が力を持つと、途端に支配的になる。
- 支配的、カルト的リーダーの下で苦しむ信徒たち。
依存的信徒に抑圧されて、病んでいく牧師たち。

【使命を忘れた日本の地域教会の姿いろいろ】

- 申し訳程度の「伝道費」。「伝道集会」はアリバイづくり？
- 次世代への信仰継承の軽視。家族伝道、子どもたちへの伝道は？
- 労使交渉のような役員会
謝儀や信徒の奉仕を巡っての、牧師と役員(信徒代表)の応酬。
昼食は、カレーか、うどんか？ どちらでもいいような議題で紛糾。
- 伝道のビジョンにかけた総会
やたらと多い〇〇委員会。具体的な伝道については…。
- 参加者数名の聖書研究会。牧師にも信徒にも倦厭される学び。
- 出席数、出席回数は気にするが、義務的で喜びは薄い。
- 週に一度の礼拝以外は、忘れ去られた聖書。

地域教会の低迷の理由はどこにある？

【背信のイスラエル】

- 神と人を取りなす祭司。聖別された民として神を証しする使命があるが...
 - ➡ 歪んだ選民意識に陥り、伝道の意識は薄く、内向き、排他的に。
 - ついに、イスラエルのメシアとして来られたイエスを拒んでしまう。

【偽りに陥った教会】

- 主イエスの大宣教命令。初臨と再臨のメシアを伝えていく重要な使命。
 - ➡ 組織は大きく成長したが、異邦人信者は、メシアニック・ジューを排除。
 - ➡ 本来のヘブル的文脈を失い、終末論もあいまいに。
 - ➡ 神の計画が分からず、よって、現在なすべき使命もあやふや。
 - ➡ 個人的救いの体験にとどまり、福音宣教の使命に押し出されない。

地域教会の低迷の最大の理由は、本来のヘブル的文脈の喪失

【教会の病理現象】

主に信頼して、信仰の投資を続けているか？

①形式主義

形に捕らわれてないか？

②権威主義

力で押さえつけてないか？

③伝統主義

前例に縛られてないか？

④内向指向

福音宣教に力を注いでいるか？

⑤会員指向

普遍的教会を意識しているか？



【あるべき教会の姿へ】

主に信頼し、信仰の投資をし続ける教会へ

①自由

人ではなく、主にのみ従っている

②自治

地域教会に主体的に参加する

③変革

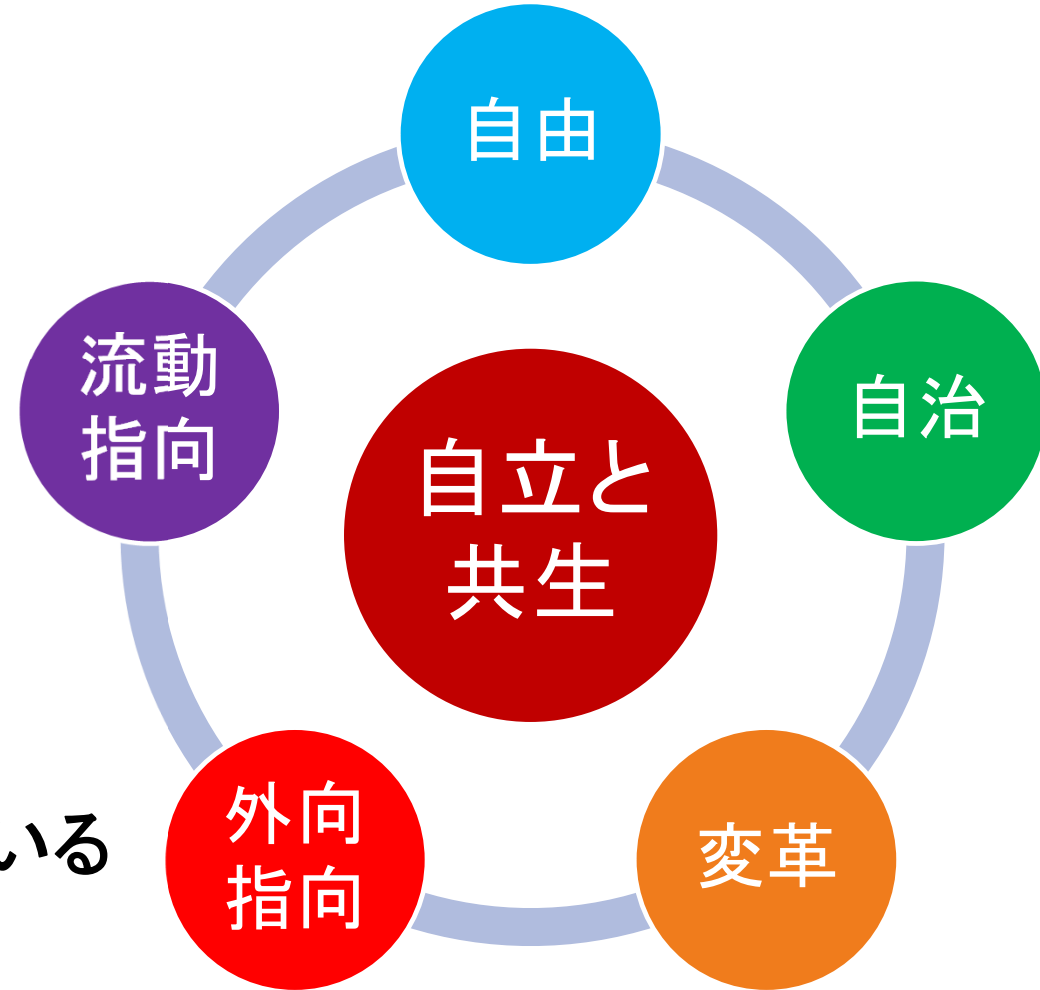
変化を厭わず、成長していく

④外向指向

福音宣教の使命を第一にしている

⑤流動指向

普遍的教会の建て上げを意識している



【地域教会に求められる投資神託】

- 信仰とは、まだ見ぬ神の約束を信じて歩み出すこと。
 - ➡ 行き先を知らないまま旅だったアブラハム。
 - ➡ 見知らぬ異邦人の地へ世界宣教に押し出された使徒たち。
- 福音宣教は、神の約束への信頼に基づく投資。
 - ➡ 網を捨てて、主イエスに従った弟子たち。
 - ➡ マケドニアでの伝道のため、エーゲ海を渡ったパウロ。
- 信者に与えられた主の恵みは、伝道という投資のためにこそある。

福音宣教は、投資神託!! 主を信頼して、投資し、神に託そう!!

【福音宣教という投資のために】

■まず、神の計画の全貌を理解しよう。 → **学ぼう!!**

今の時代に、教会と信者に求められる働き、使命をしっかりと学ぼう。

■どこに投資すべきかを、常に考えていこう。 → **投資しよう!!**

今、労力、時間、資金を注ぐべきところ、対象は何なのか？

■いつでも、意識を地域教会の外に向けていこう。 → **伝道しよう!!**

福音宣教こそが、この時代の教会に与えられた最大の使命!!

■スリムで、柔軟で、常に使命の本質に立った地域教会を考えていこう。

私たちが建てあげるべきは、一つのキリストの御体なる、普遍的教会!!

【使命に用いられやすい地域教会の組織づくりを考える】

■ スリムで柔軟性があり、機動力がある組織作り。

・役職は最低限。組織はコンパクトに。

★当面の体制 → 長老(1名)、執事(2~3名)

★将来的な理想 → 長老(複数)、執事(複数)

・少数精鋭で意思決定が素早くできる体制を。

・情報は、できるだけオープンに(報告には手をかけないすむ方法で)。

■ 一人一人の自発性を重視 ...奉仕は自発的でなければ意味がない!!

★白紙で張り出す奉仕表 → 自発的に担う。

■ ゆるやかなメンバーシップ、でも、核はしっかりと。

・正規の教会員以外の信者にも、いろいろな奉仕の機会を。

(※司会は、長老、執事。メッセージは、長老が担当。)

【聖書フォーラムの理念】

■1. 共生のためのABC

① 目的(AIM)

神の栄光

② 土台(BASIS)

ユダヤ的視点による聖書解釈

ディスペンセーションリズムによる聖書解釈

聖書的イスラエル理解

③ 理念(CONCEPT) (...以下の点には例外もあり得る)

自給伝道

家の教会 ...地域教会が参加する例も(※鹿追教会)

ネットワーキング(ネットワーク)

【聖書フォーラムの理念】

2. 自立への道 — 教会の病理現象からの脱却

① 形式主義から自由へ

キリストにある自由 愛を働かせるための自由

② 権威主義から自治へ

自給伝道 自主運営

③ 伝統主義から変革へ

ユダヤ的聖書解釈 神の国の視点

④ 内向き志向から外向き志向へ

キリスト教信仰を世界観、歴史観としてとらえる。

⑤ 会員志向から流動志向へ

歴史の流れと社会の現状を読む。 自らの動機の再確認